

高齢期の外出に対する不安と意向

—60・70代生活者アンケートにみる外出の現状と将来—

研究開発室 水野 映子

—要旨—

- ① 60～79歳の人を対象とするアンケート調査を実施し、移動手段利用の現状や現在・将来の外出に対する不安・意向などを明らかにした。
- ② 最近1年間に使った割合が半数を超える移動手段は、「徒歩」(91.8%)、「電車」(80.0%)、「バス」(68.1%)、「自分が運転する自動車」(55.6%)である。
- ③ 「一泊以上の旅行」「観戦・鑑賞」「日帰りの行楽・観光」では「電車」、「日常的な日常的な買い物」「通院」「個人でおこなうスポーツ」では「徒歩」、その他5つの活動では「自分が運転する自動車」が使われる割合が最も高い。
- ④ 「外出するより家の中で過ごすほうが好きである」「遠出をするのは好きでない」人はそれぞれ2割前後にとどまる一方、「将来、体の機能が低下してもできるだけ外出したい」人は6割を超えており、現在・将来の外出意向の高さがうかがえる。しかし「将来、自分の体の機能が低下したら、外出が不便にならないか不安である」人は43.5%と少なくない。
- ⑤ 「バスや電車の本数が増えれば、もっと外出すると思う」「バスや電車の路線が増えれば、もっと外出すると思う」人はそれぞれ2割強に過ぎないが、「バスや電車の料金が無料か割引になる制度を自分が利用できればもっと外出すると思う」「タクシーの料金が割引になる制度を自分が利用できればもっと外出すると思う」人はそれぞれ4割強いる。

1. 調査の概要

(1) 背景と目的

高齢になり身体機能が低下すると外出が困難になる。内閣府(2009)が60歳以上の人を対象に実施した調査では、日常生活を営むうえで不自由を感じる時があると答えた人のうち、過半数が「外出するとき」に不自由を感じると回答している。また、高齢の人ほど外出頻度は低く(内閣府 同)、「病院、診療所」以外の外出先は少ない傾向がある(水野 2004)。

加齢とともに外出頻度や外出先が減る一因は、身体機能の低下によって移動手段の

利用が困難になることにあると考えられる。そこで、近い将来に移動手段の利用が困難になるかもしれない、あるいは既に困難になっている人の外出の現状や将来の不安・意向を把握し、移動手段の利用が困難になった高齢者の外出をめぐる課題を整理することを目的に、60歳～79歳の人を対象とするアンケート調査を実施した。

本レポートでは、買い物・通院など日常生活に不可欠な活動や趣味の活動における移動手段利用の現状を示す。それをふまえた上で、現在・将来の外出に対する不安や意向などを明らかにする。

(2) アンケート調査の方法

アンケート調査は、株式会社クロスマーケティングに委託し、インターネットを通じて実施した。調査時期は2010年11月、調査対象者は全国の60～79歳男女800名である。男女の各年代（60～64歳、65～69歳、70～74歳、75～79歳）に100名ずつを割り当てた。

(3) 回答者の特性

運転免許を「現在、持っている」人は65.3%、「以前は持っていたが、現在は持っていない」人は7.0%、「持っていたことはない」人は27.8%であった（図表省略）。図表1には運転免許を「現在、持っている」割合を、性別および性・年代別に示す。また参考までに、警察庁（2011）のデータから算出した性・年代別の運転免許の保有率を併記する。

図表2には、居住している市区町村の規模（都市規模）、および自宅から駅まで歩いた場合の時間（駅までの時間）を示す。

次に、図表は省略するが同居者についてみると、配偶者がいる割合は全体の74.8%、運転免許を持つ配偶者がいる割合は47.9%である。また、配偶者以外の同居者がいる割合は41.3%、運転免許を持つ配偶者以外の同居者がいる割合は30.9%である。

図表1 運転免許の保有状況（性別、性・年代別）

		n	現在、 持っている	【参考】 保有率(注)
性別	男性	400	80.8%	
	女性	400	49.8%	
性・年代別	男性60～64歳	100	88.0%	93.5%
	男性65～69歳	100	84.0%	87.4%
	男性70～74歳	100	85.0%	80.0%
	男性75～79歳	100	66.0%	65.4%
	女性60～64歳	100	79.0%	66.5%
	女性65～69歳	100	49.0%	49.1%
	女性70～74歳	100	51.0%	30.1%
	女性75～79歳	100	20.0%	14.0%

注：運転免許の保有率は、2010年12月1日の人口（総務省 2011）に占める2010年末の運転免許保有者数（警察庁 2011）の割合

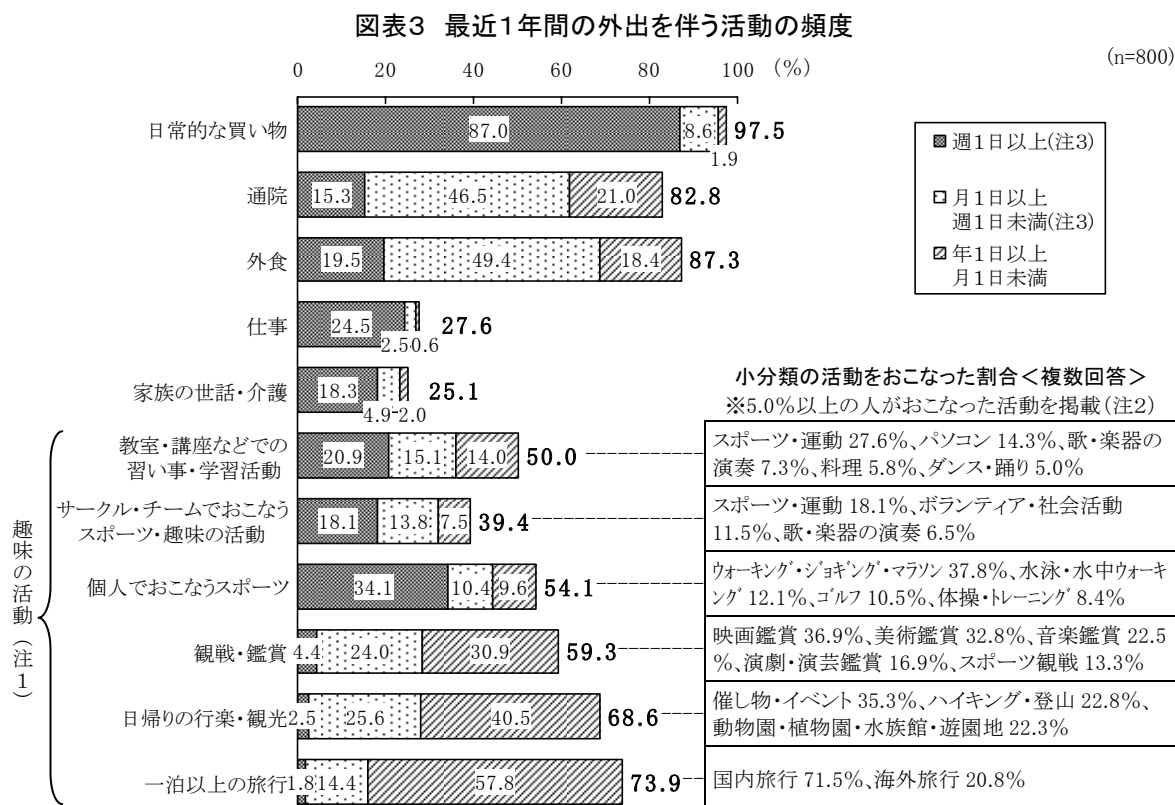
図表2 居住地域の状況

都市規模	東京都23区	11.5%
	政令指定都市	28.5%
	その他の市	51.3%
駅までの時間	町村	8.8%
	5分未満	10.4%
	5～10分未満	26.0%
	10～15分未満	20.4%
	15～30分未満	25.3%
	30分以上	16.0%
	わからない	2.0%

2. 外出を伴う活動における移動手段利用の現状

(1) 外出を伴う活動の頻度

図表3に示す活動を最近1年間に自宅以外でどの程度おこなったかをたずねた。年1日以上おこなった割合は、「日常的な買い物」ではほぼ全て、「外食」「通院」では8割台、「旅行」「行楽・観光」では7割前後となっている。



注1: 文中ではそれぞれの活動を「習い事・学習」「サークル活動」「個人スポーツ」「鑑賞」「行楽・観光」「旅行」と省略
 注2: 趣味の活動については、6つの大分類の活動の中の小分類の活動を最近1年間に自宅以外でおこなったかどうか複数回答でたずねた。そのうえで、小分類の活動のいずれかをおこなった場合には、大分類の活動を最近1年間に「おこなった」とし、さらにその活動頻度をたずねた。
 注3: 週1日以上は「週5日以上」「週2~4日程度」「週1日程度」の合計、月1日以上週1日未満は「月2~3日程度」「月1日程度」の合計

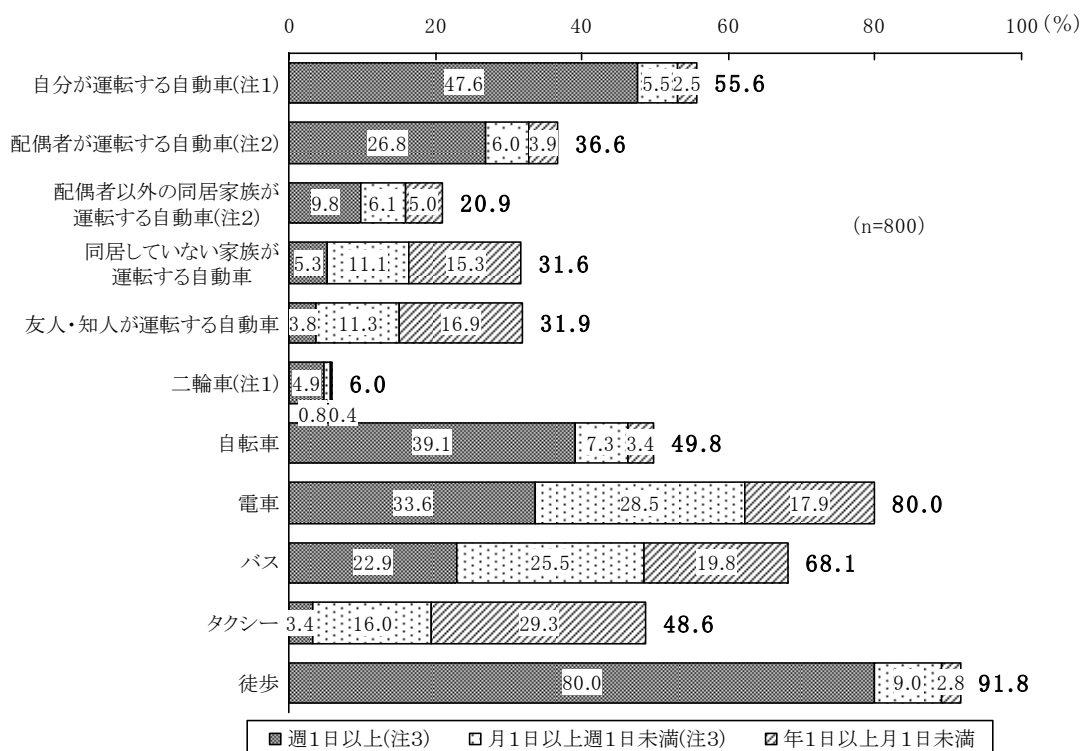
(2) 移動手段の利用頻度

図表4に示す移動手段を最近1年間にどの程度使ったかたずねた。年1日以上使った割合が半数を超えるのは「徒歩」(91.8%)、「電車」(80.0%)、「バス」(68.1%)、「自分が運転する自動車」(55.6%)である。

図表5で年1日以上使った割合を性別にみると、男性より女性のほうが「自分が運転する自動車」「自転車」の割合は低く、「同居していない家族が運転する自動車」「友人・知人が運転する自動車」の割合が高い。男性に比べ女性は自分が自動車や自転車を運転しない分、他の人が運転する自動車を使っているといえる。

駅までの時間別では15分以上の人、都市規模別では小都市の人で「自分が運転する自動車」「配偶者が運転する自動車」の割合が非常に高い。

図表4 最近1年間の移動手段の利用頻度



注1: 分母には運転免許を持っていない人を含む
 注2: 分母には該当する同居家族(配偶者/配偶者以外の同居家族)がいない場合や、その同居家族が運転免許を持っていない場合も含む
 注3: 図表3の注3と同じ

図表5 各移動手段を年1日以上使った割合(性別、性・年代別、駅までの時間別、都市規模別)

			(単位:%)										
			自分が運転する自動車	配偶者が運転する自動車	同居家族以外が運転する自動車	同居家族が運転する自動車	友人・知人が運転する自動車	二輪車	自転車	電車	バス	タクシー	徒歩
性別	男性	n=400	71.0	34.5	19.8	25.3	29.3	8.3	54.5	79.0	66.5	50.3	91.3
	女性	n=400	40.3	38.8	22.0	38.0	34.5	3.8	45.0	81.0	69.8	47.0	92.3
性・年代別	男性60代	n=200	74.0	42.5	20.5	25.5	33.5	11.0	58.0	79.0	61.0	52.5	89.5
	男性70代	n=200	68.0	26.5	19.0	25.0	25.0	5.5	51.0	79.0	72.0	48.0	93.0
	女性60代	n=200	51.5	48.0	21.5	41.5	38.5	5.0	58.0	83.5	69.0	44.0	94.0
	女性70代	n=200	29.0	29.5	22.5	34.5	30.5	2.5	32.0	78.5	70.5	50.0	90.5
駅までの時間別	15分未満	n=454	49.1	30.6	20.3	33.0	33.3	3.7	55.1	87.0	68.7	49.8	94.5
	15分以上	n=330	64.2	45.2	22.1	29.7	30.3	9.1	42.7	71.8	67.9	47.6	89.1
都市規模別	大都市	n=320	44.1	26.6	19.4	29.7	30.0	4.7	49.7	89.4	78.1	53.4	94.4
	小都市	n=480	63.3	43.3	21.9	32.9	33.1	6.9	49.8	73.8	61.5	45.4	90.0

注1: 「都市規模」は「東京都23区」「政令指定都市」を「大都市」、「その他の市」「町村」を「小都市」とした
 注2: 2項目間(男性と女性、男性60代と男性70代、女性60代と女性70代、駅まで15分未満と15分以上、大都市と小都市)の差が5ポイント以上ある場合には、高いほうの数値をゴシック体で示した

(3) 活動別の移動手段の利用頻度

(1)で述べた活動を最近1年間におこなった人に対して、それぞれの活動をおこなう際に使った移動手段を複数回答でたずねた。図表6の通り、どの活動においても3位以内には「自分が運転する自動車」があがっており、それ以外では「自転車」「電車」「バス」「徒歩」のいずれかがあがっている。

図表6 最近1年間の外出を伴う活動で使った移動手段<複数回答>

	自分が運転する自動車	配偶者が運転する自動車	自転車	電車	バス	徒歩
日常的な買い物	42.3% ②	15.6%	29.8% ③	8.4%	10.3%	44.4% ①
通院	25.6% ②	5.5%	16.9% ③	13.4%	12.6%	28.0% ①
仕事	11.4% ①	0.5%	3.9% ③	7.8% ②	2.9%	5.4%
家族の世話・介護	10.3% ①	1.6%	1.9%	2.5% ③	1.6%	7.4% ②
外食	29.9% ①	15.1%	6.4%	23.4% ③	11.0%	24.3% ②
教室・講座などでの習い事・学習活動	15.4% ①	1.6%	9.3%	10.9% ③	6.1%	15.3% ②
サークル・チームでおこなうスポーツ・趣味の活動	12.6% ①	0.6%	8.1% ③	7.6%	4.9%	11.0% ②
個人でおこなうスポーツ	14.5% ②	2.3%	9.0% ③	5.9%	3.4%	26.9% ①
観戦・鑑賞	14.3% ②	4.1%	4.4%	32.5% ①	13.1% ③	10.3%
日帰りの行楽・観光	21.0% ③	8.5%	1.1%	28.8% ①	22.0% ②	8.9%
一泊以上の旅行	18.0% ③	8.9%	0.5%	34.6% ①	20.0% ②	8.1%

注1:丸数字は各活動の中で使った割合が高い上位3項目を示す(①が1位、②が2位、③が3位)

注2:分母は各活動をおこなった人ではなく、回答者全員(n=800)とした

注3:「配偶者以外の同居家族が運転する自動車」「同居していない家族が運転する自動車」「友人・知人が運転する自動車」「二輪車」「タクシー」の結果は省略

3. 現在・将来の外出に対する意識

(1) 外出の不便さ・不安

現在「住んでいる地域は外出が不便で困っている」「住んでいる地域は自動車がないと生活しにくい」に当てはまる割合(「当てはまる」+「どちらかといえば当てはまる」)はそれぞれ14.0%、34.5%であり、当てはまらない割合(「当てはまらない」+「どちらかといえば当てはまらない」)に比べて低い(図表7)。一方、「将来、自分の体の機能が低下したら、外出が不便にならないか不安である」に当てはまる割合は43.5%であり、現在外出が不便で困っている割合に比べると高い。また「将来、外出が不便になったら、楽しみが減ると思う」に当てはまる割合は62.6%とさらに高い。

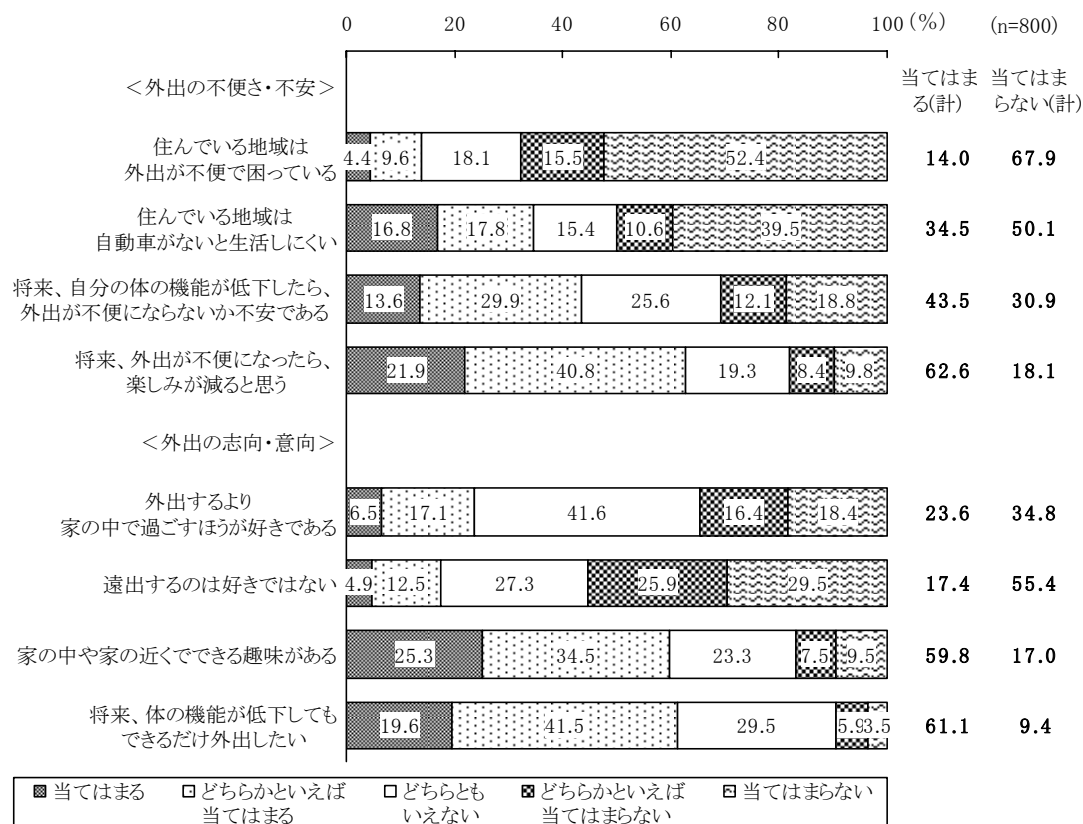
図表8で駅までの時間別、都市規模別にみると、これら4項目に当てはまると答えた割合は駅まで15分以上の人、小都市の人でかなり高い。

(2) 外出の志向・意向

図表7の通り、「外出するより家の中で過ごすほうが好きである」に当てはまらない割合(34.8%)は当てはまる割合(23.6%)より高い。また、「遠出するのは好き

ではない」に当てはまらない割合は55.4%と半数を超え、「将来、体の機能が低下してもできるだけ外出したい」に当てはまる割合は61.1%と高い。つまり、外出が好きで遠出もいとわず、将来の外出意向も強い人が多いことがわかる。ただし、「家の中

図表7 外出に対する意識



図表8 外出に対する意識(性別、性・年代別、駅までの時間別、都市規模別)

	性別	n	外出の不便さ・不安				外出の志向・意向			
			住んでいる地域は外出が不便で困っている	住んでいる地域は自動車がないと生活しにくい	将来、自分の体の機能が低下したら、外出が不便にならないか不安である	将来、外出が不便になったら、楽しみが減ると思う	外出するより家の中で過ごすほうが好きである	遠出するのは好きではない	家の中や家の近くでできる趣味がある	将来、体の機能が低下してもできるだけ外出したい
性別	男性	400	14.3%	34.5%	42.8%	64.5%	20.5%	14.3%	58.5%	65.8%
	女性	400	13.8%	34.5%	44.3%	60.8%	26.8%	20.5%	61.0%	56.5%
性・年代別	男性60代	200	17.0%	35.5%	43.0%	62.0%	21.0%	14.0%	60.0%	65.0%
	男性70代	200	11.5%	33.5%	42.5%	67.0%	20.0%	14.5%	57.0%	66.5%
	女性60代	200	15.0%	34.5%	45.5%	61.0%	28.0%	20.0%	62.0%	56.0%
	女性70代	200	12.5%	34.5%	43.0%	60.5%	25.5%	21.0%	60.0%	57.0%
駅までの時間別	15分未満	454	4.8%	19.2%	33.0%	59.0%	22.0%	16.3%	57.3%	61.9%
	15分以上	330	25.8%	54.5%	56.7%	66.7%	25.2%	18.5%	63.3%	59.7%
都市規模別	大都市	320	8.4%	18.1%	35.6%	57.5%	23.4%	15.6%	58.4%	59.4%
	小都市	480	17.7%	45.4%	48.8%	66.0%	23.8%	18.5%	60.6%	62.3%

注1:「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の合計

注2:2項目間(男性と女性、男性60代と男性70代、女性60代と女性70代、駅まで15分未満と15分以上、大都市と小都市)の差が5ポイント以上ある場合には、高いほうの数値をゴシック体で示した

や家の近くでできる趣味がある」に当てはまる割合も6割近い。多くの人は外出を好みつつ、自宅の中や近辺でできる趣味も持っているといえる。

当てはまる割合を前ページの図表8で性別にみると、女性より男性において「外出するより家の中で過ごすほうが好きである」「遠出するのは好きではない」は低く、「将来、体の機能が低下してもできるだけ外出したい」は高い。男性の外出意向のほうがより強いといえる。

一方、これらの割合の60代と70代の差は男女とも小さく、駅までの時間や都市規模による顕著な差もない。つまり現在・将来の外出意向は年代や地域によってあまり変わらない。

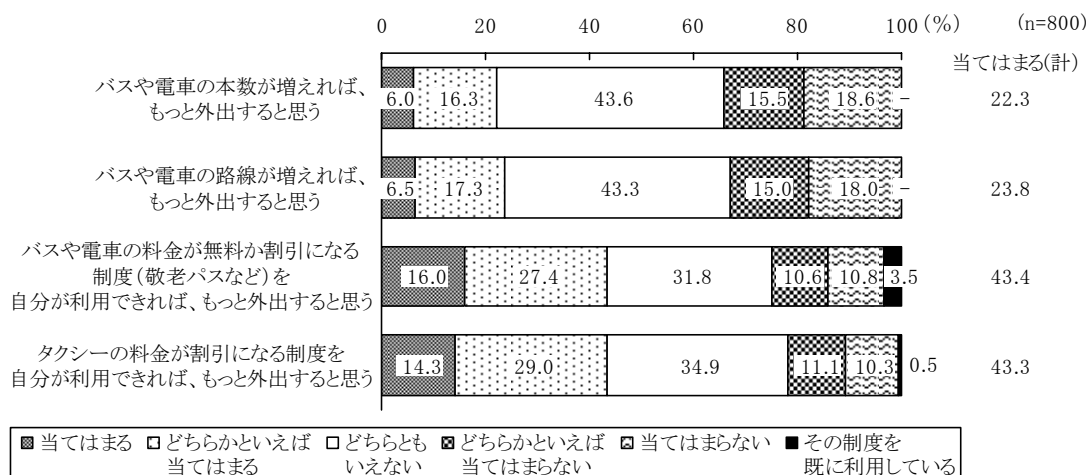
(3) 交通環境・制度が整備された場合の外出意向

図表9の通り「バスや電車の本数が増えれば、もっと外出すると思う」「バスや電車の路線が増えれば、もっと外出すると思う」に当てはまる割合はそれぞれ2割強でありあまり高くない。一方、「バスや電車の料金が無料か割引になる制度を自分が利用できれば、もっと外出すると思う」「タクシーの料金が割引になる制度を自分が利用できれば、もっと外出すると思う」に当てはまる割合はそれぞれ4割を超える。交通費の負担軽減が外出を促進する可能性がある。

図表10で当てはまる割合を性別にみると、女性のほうがいずれの項目においても高い。性・年代別では一定の傾向がみられない（図表省略）。

駅までの時間別では15分以上の人、都市規模別では小都市の人のほうが「バスや電車の本数が増えれば、もっと外出すると思う」「バスや電車の路線が増えれば、もっと外出すると思う」に当てはまる割合がいずれも5ポイント前後高い。交通の不便な地域では、交通費の負担軽減だけでなく、バスや電車の環境が整うことによって外出頻度が増える可能性もやや高い。

図表9 交通環境・制度が整備された場合の外出意向



図表10 交通環境・制度が整備された場合の外出意向(性別、駅までの時間別、都市規模別)

		n	バスや電車の 本数が増えれば、 もっと外出する と思う	バスや電車の 路線が増えれば、 もっと外出する と思う	バスや電車の料金が無 料か割引になる制度を 自分が利用できれば、 もっと外出すると思う	タクシーの料金が 割引になる制度を 自分が利用できれば、 もっと外出すると思う
性別	男性	400	18.8%	19.0%	39.5%	38.3%
	女性	400	25.8%	28.5%	47.3%	48.3%
駅までの 時間別	15分未満	454	19.8%	21.1%	45.4%	40.7%
	15分以上	330	25.5%	27.3%	40.6%	46.1%
都市 規模別	大都市	320	20.0%	20.6%	44.1%	42.8%
	小都市	480	23.8%	25.8%	42.9%	43.5%

注1: 当てはまる(「当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」と答えた人の割合

注2: 2項目間の差が5ポイント以上ある場合には、大きいほうの数値をゴシック体で示した

4. まとめ

外出するより家の中で過ごすほうが好きな人や遠出が好きではない人は少なく、将来身体機能が低下しても外出したいという人は多い。年齢や居住地域によるこれらの意識の差はあまりない。年齢や地域にかかわらず、現在も将来も外出したいという気持ちがあることがうかがえる。一方、将来的に外出が不便になる不安を感じている人は少なくない。特に、駅から遠く人口規模が小さい地域の居住者は、将来の外出に対する不安が大きい。

回答者の現在の移動手段の利用状況をみると、特に電車やバス、自動車が生活のさまざまな場面で活用されている。将来の外出に不安を感じる背景には、身体機能が低下してこれらの移動手段の利用が困難になることに対する不安があると考えられる。移動手段の利用が困難にならないための、そして困難になっても支障が生じないための対策が必要である。

電車・バスや自動車を利用しにくくなった場合に生じうる具体的な支障については追って別のレポートで述べる。

(研究開発室 主任研究員)

【引用文献】

- ・警察庁, 2011, 『運転免許統計』.
- ・総務省, 2011, 『人口推計—平成23年5月報—』.
- ・内閣府, 2009, 『平成21年度 高齢者の日常生活に関する意識調査』.
- ・水野映子, 2004, 「高齢者の外出の現状・意向と外出支援策」『Life Design Report』(2004.9).
- ・水野映子, 2010, 「高齢ドライバーの事故防止策をめぐって」『Life Design Report』(Summer2010.7).